

2017年9月9日

2017年度東野高等学校同村会総会

議 案 書 (採択済)

於：東野高等学校活動会館

基 調 報 告

会 長 遠 山 尚

同村会会員の皆さま、ご苦労さまです。既に、一年が経過していることもあり、記憶が遠ざかっているとは思いますが、2016年度前期は、同村会の仲間が、オリンピックの日本代表として、陸上・カヌー競技に出場されました。

しかし、オリンピックのような大きな祭典でなくとも、同村会の9,000名を超える仲間が、社会の各方面で活躍されていることと思います。同村会は、今後、多角的に仲間の活躍を皆さんへ御紹介していき、会員相互の交流が可能になる場を設けたいと考えております。また、会員の職業等の情報を提供していただき、在校生にとって、卒業後の選択肢が一つでも拡がるような活用をしていきたいとも考えております。

2016年度の同村会は、引き続き、会の存在意義や目的が稀薄にならぬよう、「在校生そして卒業生並びに、東野高等学校の力に」という同村会の設立目的に沿うべく、16名の役員と協力委員等が活動をして参りました。

しかしながら、役員会の開催としては、結果、年間8回の会議開催となり、昨年度に比較して開催回数が減ってしまったことが反省点として挙げられます。また、同村会の活動を充実させるためとはいえ、役員会の開催回数が減ることにより、会議の長時間化等の課題も浮き彫りになり、役員の負担軽減と役員会の定期的開催が容易にできるような形態等を検討し、より進歩し充実した役員会を作っていきたいと考えております。

2016年度において、同村会は新たな課題や活動に取り組んで参りました。

一つ目には、冒頭に記載したオリンピック出場を果たした卒業生がおり、学校がその卒業生へ応援の寄附をすることから、同村会は、学校に対して寄附協力を致しました。また学校主催の壮行会も行われ、入間ケーブルテレビが取材に来ている中、同村会を代表して、会長である私が出席と激励の挨拶を致しました。

二つ目は、会報を年度内に2回の発行をすることができました。本総会の案内と共に

会報の夏号がお手元に届いたと思いますが、会員の皆さんに、少しでも多く同村会からの情報をお伝えしたいと、数年来の活動課題として年2回の発行を目標としておりました。ようやく2回の発行ができたことで、同村会を今まで以上に身近に感じて下されば嬉しい限りです。併せて、今後は、会員の記事の掲載等、会員の情報発信の場として、会報記事の充実と、更なる活用を検討していきたいと考えております。

三つ目には、同村会役員と、有志の先生方との親睦会の開催です。私たちは、現在の学校や、先生方の思いや活動をあまり知る機会がありません。また、先生方にとっても、同村会がいったいどのような考えのもと、どのような卒業生が活動を担っているのか等を知る機会もありませんでした。私たちとしては、現役の先生方とのコミュニケーションを密にすることで、今後の同村会の活動を、学校・在校生に理解を深めてもらう必要を感じています。

本日の文化祭にあたって、手作り風鈴によるアーケードや第一の門の装飾を、在校生と同村会が協力して手がける等、在校生に、同村会を周知してもらえよう活動であることは言うまでもありません。しかし、この活動にあたって、まずは在校生とのパイプ役となってくださる担当教員とのコミュニケーションを深めたことにより、在校生とのより緊密な交流が図れる方法を検討し、実践ができたことも事実です。

このように、役員が教職員の方々と定期的に交流を深めることは、結果として同村会が、東野高等学校を中心としたコミュニティーを支え・活性化していく一端を担えると考えておりますため、今後の継続の必要性等から、2017年度からは予算計上をしていくことと致しました。

さて、同村会の活動が活発になるにつれ、その原資確保が課題となります。会報を発行・発送するだけで60万円近くの資金が必要となることから、2015年度には、同村会設立後初めてとなる、会費の値上げを学校に依頼し、来年3月に新会員となる2017年度卒業生から、会費を2,000円増額して戴くことになりました。

現在、同村会は、その会費を永年会費として扱っておりますため、皆さまに別途の会費や寄附を頂くことはありませんが、上記の増額がされたとしても、卒業生300人で、60万円分の増収でしかなく、これは1回の会報作成で費消してしまうこととなります。

これまでは、同村会の活動や運営を活性化するため、収入を超えた支出予算案を提示し、貯蓄からの支出もしておりましたが、ここ数年の一定程度の同村会活動が回って来た現状や、必要な支出の目処が経ったことから、今後は、少しずつでも収入を得られる方法を検討する必要があると出て来ました。しかし、収入第一の営利団体になる訳にはいきませんので、皆さんに納得いただけるような収入源として、東野のグッズ製作・販売等を検討していきたいと思えます。

次に、継続課題の一つである不明会員を減少させる活動ですが、昨年度、同村会室に新ためてFAXを入れたことにより、住所変更をFAXでご連絡下さる方も増え、宛先不明で戻る送付物は減少しております。このように不明会員を増やさない対策は少しずつ結果が出ておりますが、不明会員自体を減少させるまでには至っておらず、これには、皆さまのご協力が必要となります。

一つには、毎号の会報最終ページに掲載しておりますように、卒業生同士で会報が届いているか等を確認していただき、届いてない方に対して、同村会へFAXやメールで連絡をするように促して頂きたいのです。

また、同村会の活動として、同期会開催通知の発送のお手伝いをしておりますが、是非、活用いただき、同期会を開催して頂きたいと思えます。本年は1期生が卒業後初めての同期会を開催したことで、会報が届いていない同期等への連絡がされ、住所不明となっていた何名もの1期生が、再び同村会の発送名簿に復活することができました。これは同時に、今後の同期会参加者を充実させるだけではなく、結果、同村会自体の力に繋がることは言うまでもありません。

とはいえ、会員である卒業生数は9,267名のところ、会報等の発送数は6,355件と、約2,900名の不明者がおり、昨年より100名近くの不明会員が増加しています。全会員の消息を把握するどころか、不明会員を減少させることでさえ、ほど遠い数値であるのが現状です。

会員こそが同村会の力です。今後も、皆さまのお力添えのもと、不明会員0を目指すべく努力して参りますので、ご協力を御願ひ申し上げます。

最後に、ここ数年の基調報告にも記載しております継続的な大きな課題として、同村会存続のための役員の継承問題があります。1人の役員が担うものが大きいと、諸般の事情でその役員が退任したことで、同村会が立ちゆかなくなる等の事態は避けなければなりません。そのため、可能な限り、作業の外注化等、役員の負担軽減を試みておりますが、まだまだ充足はされておらず役員の継承・同村会の存続は危ういものです。

そのため、本年度は、同村会ホームページの改製・更新の外注化を完了させる等、前述しましたように、役員が交代した場合でも、滞る業務がないよう、継承問題については常に意識し、継続討議をしていきたいと考えております。

以上のように、本議案書において、2016年度の活動報告並びに2017年度の活動方針等をご提案し、会員の皆さまにおかれては、同村会のさらなる力になっていただけるようお願い致します。同村会は、引き続き皆さまのご期待に添えるよう、多方面において活動を支えてくれる協力委員等の人的充足を図りつつ、活動の場の拡充をさせてまいります。

以上

第1号議案 2016年度活動報告

2016年度の同村会の活動は、採択された議案書の活動方針のもと、基調報告のように下記のような活動を行いました。(順不同)

2016年の盈華祭では、例年同様、第一の門の飾り付け、アイスの販売を行うだけでなく、2017年の盈華祭においては、現役生徒の完全コラボとして手作り風鈴の準備に協力をしてきました。

御報告したように、教職員有志との懇親会は、今後の学校と同村会の関係にとってとても有意義なものであり、今後も積極的に取り組むべき活動となりました。

会報は、昨年度よりさらに早く発行に漕ぎ着けたことで、新卒業生には直接配布を、また、数年来の課題であった2回の発行(夏号)をすることができました。

学校側から好評の卒業記念品配布は継続、オリンピック出場会員の壮行会への寄附協力も行い、さらに、久しぶりに同期会案内の発送作業ができる等、充実した活動年度となりました。

記

- 1 役員会の定期的開催
- 2 オリンピック出場壮行会へのスポーツ振興寄附
- 3 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 4 2回の会報発行並びに郵便での会報発送
- 5 教員有志との親睦会
- 6 30期生卒業記念品作成及び配布
- 7 30期生卒業式等出席並びに同村会アピール(会報の直接配布)
- 8 1期生同期会案内発送
- 9 2017年度総会案内発送
- 10 新たな協力委員の募集、同村会のバックアップメンバーの拡充
- 11 役員継承問題の継続討議
- 12 ホームページの外部委託

以上

第 2 号議案 2016 年度会計報告

別紙、東野高等学校同村会 平成 28 年度決算書記載のとおり

第 3 号議案 2016 年度会計監査報告

別紙、東野高等学校同村会 平成 28 年度決算書下部記載のとおり

以下余白

第4号議案 2017年度新役員選任

2016年度役員・役職

2017年度新役員候補者

会長	遠山 尚 (1)	遠山 尚 (1)
副会長	伊達亮介 (3)	菱沼博之 (1)
経理	北澤理恵 (3)	北澤理恵 (3)
"	下津郁也 (23)	伊達亮介 (3)
監査	根本 章 (3)	毒島 純 (3)
	菱沼博之 (1)	根本 章 (3)
	毒島 純 (3)	高橋古志夫 (4)
	羽田寿孝 (3)	黒澤 豊 (9)
	高橋古志夫 (4)	手嶋 毅 (9)
	深澤 寛 (5)	下津郁也 (23)
	黒澤 豊 (9)	
	手嶋 毅 (9)	
	佐藤正和 (14)	
	柏 直輝 (27)	
	小川 諒 (28)	
	柳下太郎 (28)	

() 内は卒業期

第5号議案 2017年度活動予定

2017年度の同村会は、下記の活動を行う予定です。(順不同)

まずは、盈華祭において現役生徒全員が参加した手作り風鈴トンネルの作成協力と第一の門の装飾等及び、同村会としてアイスの販売等です。

好評だった卒業記念品の配布、ここ数年行っている2017年度新会員へのアピールと会報の新会員への同時配布を予定しております。

第6号議案の予算案も併せて御確認をいただきたいのですが、学校や同村会への関わりを再開した会員、消息が判明した会員、新会員等、会員の絶対数や送付先が増加したことに伴い、通信費等は、2016年度決算レベルの金額が継続的に毎年費消されることが予測されますので、今後の活動のため、全体的な予算計上は増額となっております。

しかし、経費の問題はあるとしても、今後も各期の同期会等のバックアップをし、不明会員の消息特定には一層の努力をしていきます。

その他、基調報告にも記載しましたように、会員の経験・職業をきっかけとした在校生との交流の場の実現や、業務の外注化も含めた、本会役員の継承問題について継続的に討議を重ねていきたいと考えております。

記

- 1 役員会の定期的開催
- 2 会報の作成並びに郵便での会報発送
- 3 教職員との懇親会
- 4 31期生卒業記念品作成及び配布
- 5 31期生卒業式等出席並びに同村会アピール(会報の直接配布)
- 6 各期同期会案内発送
- 7 2017年度総会案内発送
- 8 盈華祭参加(在校生や実行委員会との交流)
- 9 新たな協力委員の募集、同村会のバックアップメンバーの拡充
- 10 会員の経験・職業等による在校生との交流会
- 11 会費以外の収入源の検討及び支出規定の検討
- 12 役員継承問題の継続討議
- 13 同村会パーティー等企画準備

以上

第6号議案 2017年度予算案

①収入の部(単年度分)

	費目	予算額
1	H30年3月時會費 (31期¥7,000×約322名)	¥2,254,000
2	受取利息	¥700
3	催事収入	¥50,000
4	雑収入	¥5,000
	計	¥2,309,700

②支出の部

	費目	予算額
1	事務費 (事務用品、消耗品、封筒等)	¥80,000
2	通信費 (電話・プロバイダ・ドメイン・会報送料等)	¥1,000,000
3	催事費 (学園祭《含既済》・卒業記念品購入費)	¥300,000
4	印刷費 (会報・総会案内等)	¥350,000
5	会議費 (交通費・会場使用料)	¥180,000
6	備品購入費	¥50,000
7	作業外注費	¥250,000
8	寄贈品・販売品等購入費	¥50,000
9	修繕費(または修繕積立金)	¥50,000
10	雑費	¥10,000
	計	¥2,320,000

東野高等学校同村会
平成28年度決算書

2016.08.01~2017.07.31


収入	金額	予算額
会費 (入会金¥5,000×302名。)	1,515,000	1,535,000
受取利息	760	1,500
催事収入 (盈華祭売上)	47,310	20,000
その他収入	5,160	5,000
収入合計	1,568,230	1,561,500
前年度繰越金	10,459,195	
総収入合計	12,027,425	

支出 ()内は、主な内容	金額	予算額
事務用品費 (宛名ラベルなど、消耗品)	89,616	70,000
通信費 (電話・フロンティア・ドメイン・会報等送料)	1,232,634	1,000,000
催事費 (学園祭・卒業記念品購入費・周年記念費)	263,531	300,000
印刷費 (会報・学祭案内)	292,258	350,000
会議費 役員交通費	140,720	150,000
備品購入費	83,672	150,000
外注費	87,636	120,000
寄贈品等購入費	75,000	100,000
修繕費		50,000
支出合計	2,265,067	2,290,000

翌年度への繰越額	収入合計	支出合計	繰越額
	12,027,425	2,265,067	9,762,358

繰越金内訳	
埼玉りそな銀行 普通	390,192
埼玉りそな銀行 定期	6,210,527
ゆうちょ銀行 普通	1,040,734
ゆうちょ銀行 定期	2,000,000
現金繰越高	120,905
合計	9,762,358

上記の通り、会計報告いたします。

会計 北澤 理真 

監査の結果、相違ありません。

監査 根本 章 